

身体機能

転倒



マツダ株式会社

マツダ病院
リハビリテーション科

療法士長 山崎 PT

衛生管理者や産業医からの呼びかけにより 労働安全衛生対策に関わるようになった

労働安全衛生対策は元々、健康推進センターの衛生管理者中心に行っていた健康推進センターの保健師がマツダ病院で受診するようになり、接点がうまれる

⇒ 衛生管理者、産業医からの呼びかけにより、理学療法士も関わり始めた



実施内容

- ① 転倒予防体操数種類（Zoom-Zoom 体操など）
- ② 階段昇降時の手すり使用の推奨
- ③ 50 歳代以上の職員に対する運動機能チェックと体操等の動画の提供

実施効果や工夫している点

転倒予防体操により、転倒数は減少

会社では転倒対策に関してしっかりと管理している

- 会社全体で移動の際、特に階段を使用するときは手すりを使用する
- リハ科監修の健康推進センターが発信している転倒予防体操（Zoom-Zoom 体操など）数種類
⇒ 体操施行後は転倒件数が減少している印象
- 定年延長に伴い、50 歳代の職員に対して運動機能チェックを行い、その結果に対する体操等の動画を提供
- 職員に対して健康相談窓口を設置してほしいという要望も出てきているため、検討中



今後の課題

理学療法士が提案したことは、1/3 ~ 1/2 程度しか反映されない事実がある。健康推進センターが長年行っている自負があるのか他職種との壁を感じる部分がある。しかし、劇的な変化はしていないが、理学療法士の提案によって徐々に変化している印象はある。